

## 今週の感染症発生動向

**感染性胃腸炎は、さらに増加  
RSウイルス感染症は、先週より倍増**

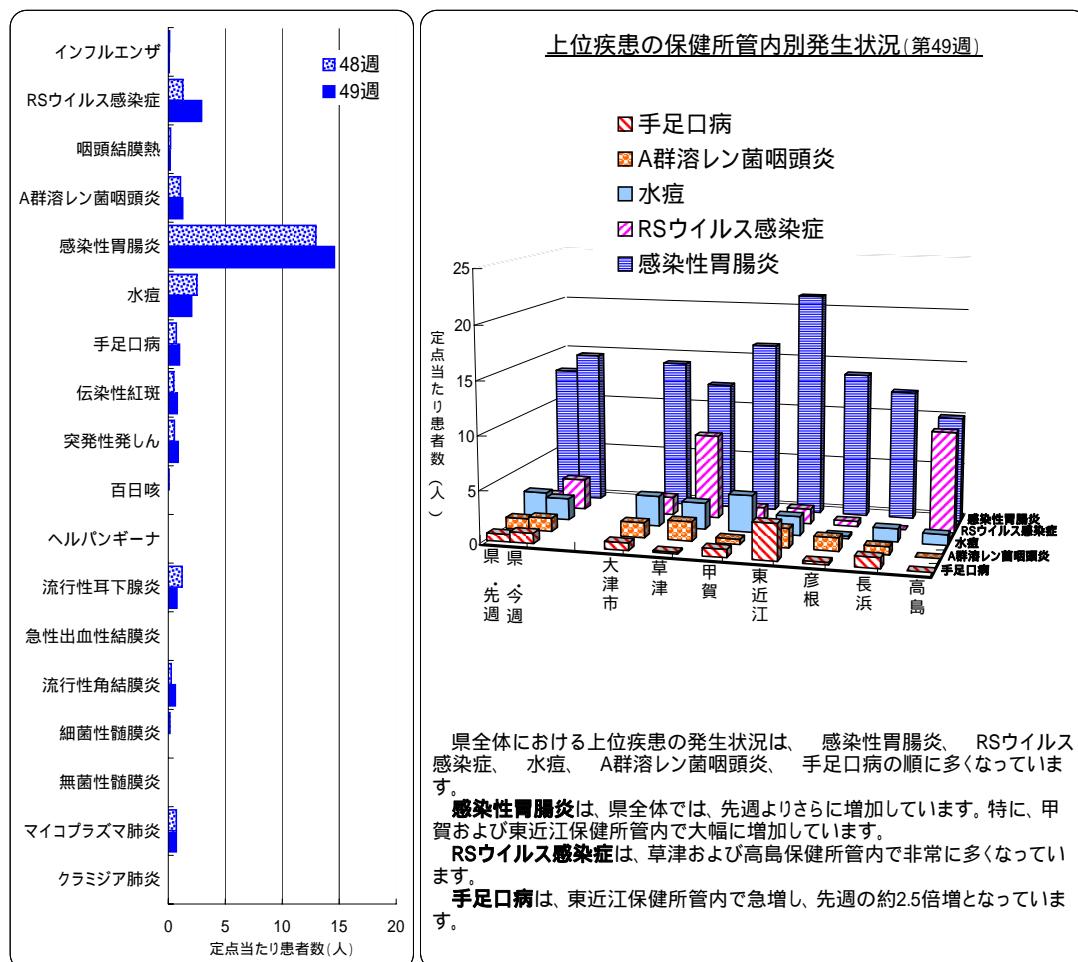
**一類~五類全数報告感染症の発生状況(第49週)**

- ・一類感染症----報告はありません
- ・二類感染症----**結核 8名**
- ・三類感染症----報告はありません
- ・四類感染症----**レジオネラ症 1名**(病型:肺炎型、年齢:70歳代))
- ・五類感染症----**アメーバ赤痢 1名**(病型:腸管アメーバ症)  
**劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1名**

**定点把握の対象となる五類感染症の疾患別発生状況(先週との比較、定点当たり患者数)**

下記グラフに示す18疾患の患者報告数は、先週(683名)の約1.2倍増となり、今週は794名となっています。今週、増加した疾患は、RSウイルス感染症、感染性胃腸炎、手足口病、伝染性紅斑(リンゴ病)等です。特に、RSウイルス感染症および感染性胃腸炎で大幅に増加しています(保健所管内別の発生状況は、(3)今週の発生状況に示すとおりです)。今週、減少した疾患は、水痘、流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)等です(週別発生状況については、疾病別定点当たり患者数のグラフ参照)。

「感染症発生動向調査に基づく流行の警報・注意報システム」によると、感染性胃腸炎では、東近江保健所管内で警報開始基準値(定点当たり患者数 20.00)を超えてています。また、伝染性紅斑では、甲賀保健所管内で警報発生基準値(終息基準値 定点当たり患者数 1.00)を超えてています。



## 1. 全数報告感染症(一類～五類)の累積報告数

滋賀県内の医療機関において、医師が感染症法で定められている一～四類および五類感染症に該当する患者を診断したとき 医師は、保健所に届出ることになっています。このことを全数報告といいます。届出により、滋賀県内で発生している感染症法で定められた一～四類および五類感染症を把握することができます。

感染症類型	疾患名	平成22年 累積報告数		平成21年 累積報告数 <sup>(*)1)</sup>		平成20年 累積報告数	
		滋賀 (49週) (48週注)	全国 <sup>(*)2)</sup>	滋賀	全国 <sup>(*)2)</sup>	滋賀	全国 <sup>(*)2)</sup>
一類感染症	報告なし	0	0	0	0	0	0
二類感染症	結核	238	23,955	256	26,932	282	28,419
三類感染症	コレラ	0	11	1	16	0	45
	細菌性赤痢	2	220	0	180	3	320
	腸管出血性大腸菌感染症	66	4,028	27	3,886	53	4,322
	パラチフス	1	21	0	27	0	27
四類感染症	E型肝炎	0	56	1	56	0	43
	A型肝炎	3	333	0	115	3	170
	オウム病	1	10	0	21	0	9
	コクシジオイデス症	0	1	0	2	1	2
	つつが虫病	1	254	0	465	0	442
	デンゲ熱	1	235	0	93	2	104
	マラリア	0	70	0	56	1	56
	レジオネラ症	10	682	8	712	10	893
五類感染症	アメーバ赤痢	7	769	10	783	10	872
	ウイルス性肝炎	3	194	3	220	5	241
	急性脳炎	1	215	8	526	1	190
	クロイツフェルト・ヤコブ病	2	148	2	141	2	152
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3	114	2	105	1	113
	後天性免疫不全症候群	1	1,376	9	1,449	11	1,568
	ジアルジア症	1	77	0	73	1	75
	梅毒	8	562	3	692	5	839
	破傷風	0	98	3	113	5	123
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	2	106	0	116	0	80
	風しん	5	81	2	148	2	309
	麻しん	1	428	7	739	39	11,015
新型インフルエンザ等感染症	新型インフルエンザ(H1N1) <sup>(*)3)</sup>	0	0	138	12,639	- <sup>(*)4)</sup>	- <sup>(*)4)</sup>

注: 49週の全国累積報告数については、次週の滋賀県感染症情報(SIDR)に掲載します。

\*1: 感染症発生動向調査年報暫定数(国立感染症研究所感染症情報センター、平成22年3月)。

\*2: 全国の累積報告数は、滋賀県で報告された疾患を対象としています(国立感染症研究所感染症情報センター提供資料参照)。

\*3: 感染症法の一部改正(平成21年7月24日施行)により届出の対象となった報告数です(届出期間: 平成21年7月24日～8月24日)。

\*4: 感染症法の一部改正以前のため、集計は行っていません。

## 2. 定点把握の対象となる五類感染症の週別および保健所管内別発生状況

感染症発生動向調査事業に係る報告のために、滋賀県が指定した「指定届出機関」を定点医療機関(定点)といい、その定点から報告される感染症です。また、定点当たり患者数とは、一週間を単位として一カ所の定点から何人の患者が報告されているかを示したもので(患者報告数 = 定点当たり患者数 × 定点数)。

### (1) 病病別・週別発生状況(平成22年第44～49週、11/1～12/12)

定点区分	定点数	疾患名	定点当たり患者数(前週より増加)							前週と同じ			前週より減少		
			44週	45週	46週	47週	48週	49週	週	45	46	47	48	49	
			11/1～	11/8～	11/15～	11/22～	11/29～	12/6～							
小児科	32	インフルエンザ	0	0.06	0.06	0.06	0.11	0.09							
		RSウイルス感染症	0.44	1.00	0.66	1.38	1.25	2.91							
		咽頭結膜熱(ブル熱)	0.03	0	0.16	0.09	0.19	0.16							
		A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.72	1.34	1.03	1.13	1.06	1.25							
		感染性胃腸炎	3.00	3.81	4.81	7.66	12.94	14.59							
		水痘	0.81	2.38	1.47	2.63	2.50	2.06							
		手足口病	0.16	0.13	0.38	0.31	0.69	0.97							
		伝染性紅斑(リンゴ病)	0.38	0.34	0.28	0.47	0.47	0.78							
		突発性発しん	0.22	0.44	0.50	0.72	0.53	0.88							
		百日咳	0	0	0.09	0.03	0.06	0							
眼科	8	ヘルパンギーナ	0.03	0.31	0.16	0.03	0	0							
		流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	0.69	0.75	0.91	1.28	1.22	0.75							
基幹	7	急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0							
		流行性角結膜炎	0.13	0	0	0.25	0.25	0.63							
		細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0.14	0							
		無菌性髄膜炎	0	0.14	0	0	0	0							
		マイコプラズマ肺炎	0	0	0.57	0.29	0.71	0.71							
		クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0							

各疾患における6週間の発生状況

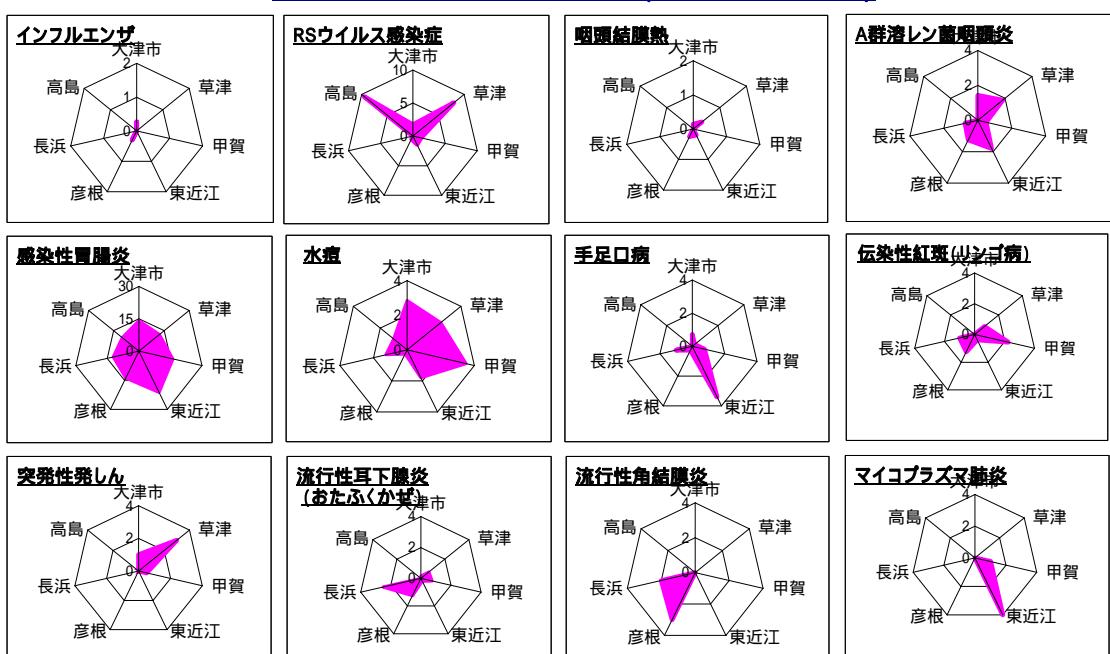
増加傾向……RSウイルス感染症、感染性胃腸炎、水痘、伝染性紅斑  
減少傾向……特になし

## (2) 疾病別・保健所管内別発生状況(第49週、12/6～12/12)

**赤:大字** は警報発生基準値を超えています

**青線・太字**は注意報発生基準値を超えてします

## 疾患別・保健所管内別発生状況(定員当たり患者数)



### (3)今週の発生状況

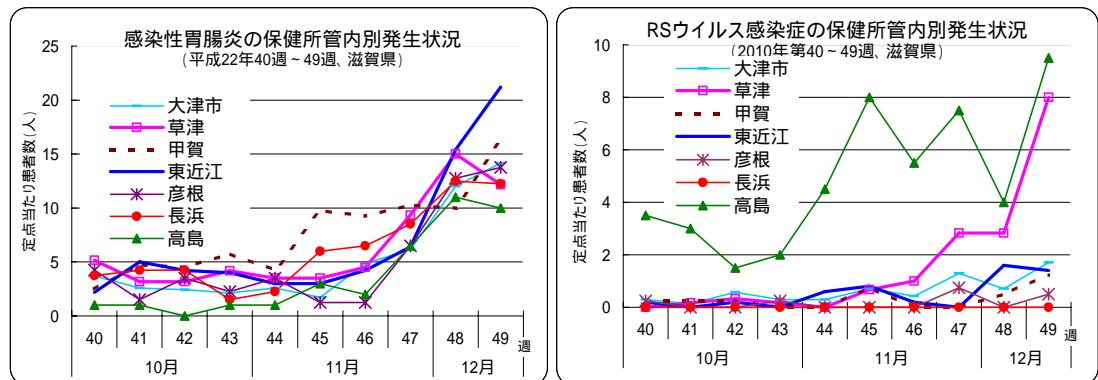
トップページに  
戻る

インフルエンザ-----大津市および彦根保健所管内から報告されています。

伝染性紅斑-----甲賀保健所管内では、先週に引き続き警報発生基準値を越えています。

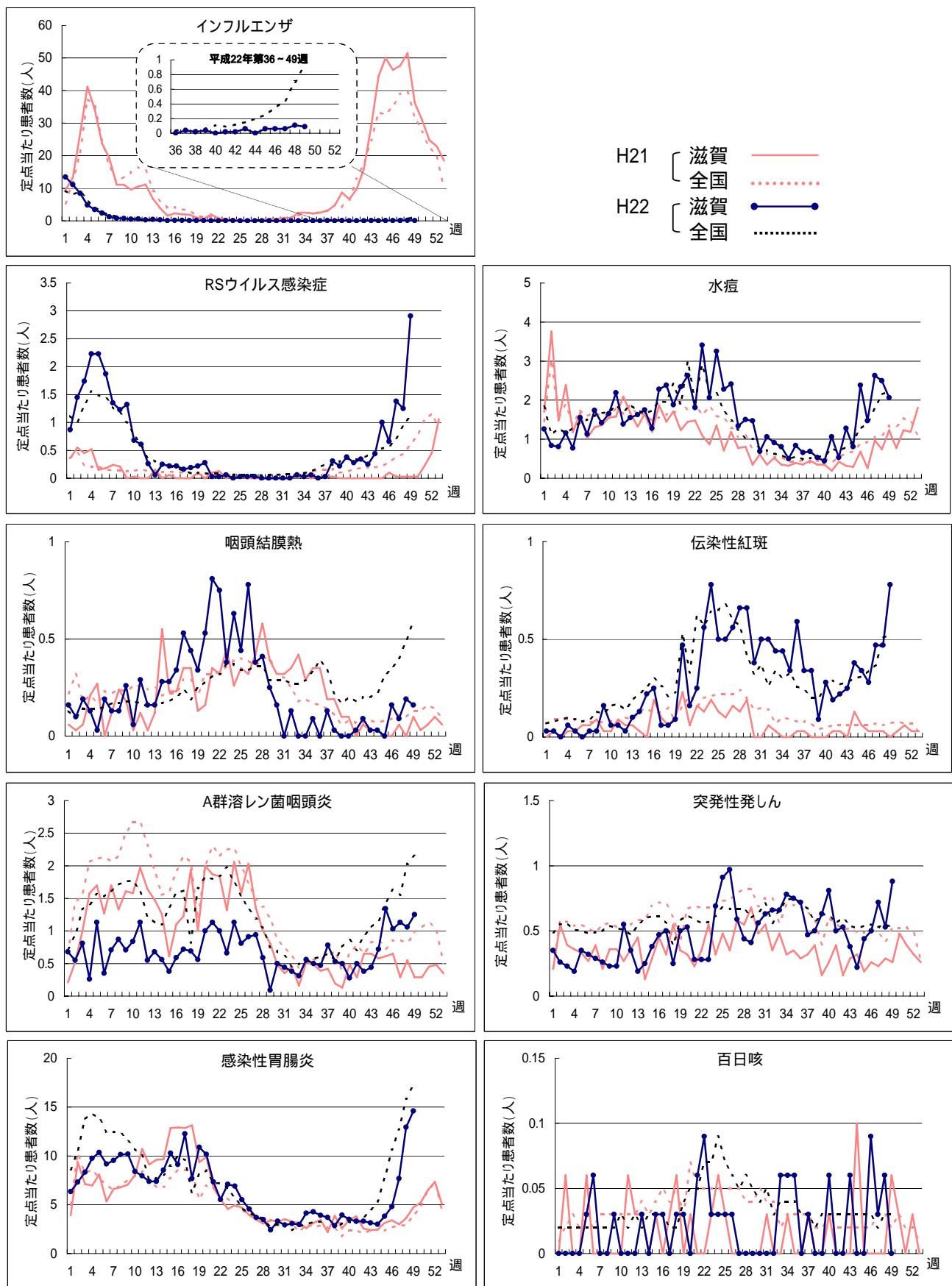
マイコプラズマ肺炎----先週と同様、東近江保健所管内からの報告が多くなっています。

## 感染性胃腸炎およびRSウイルス感染症の発生状況



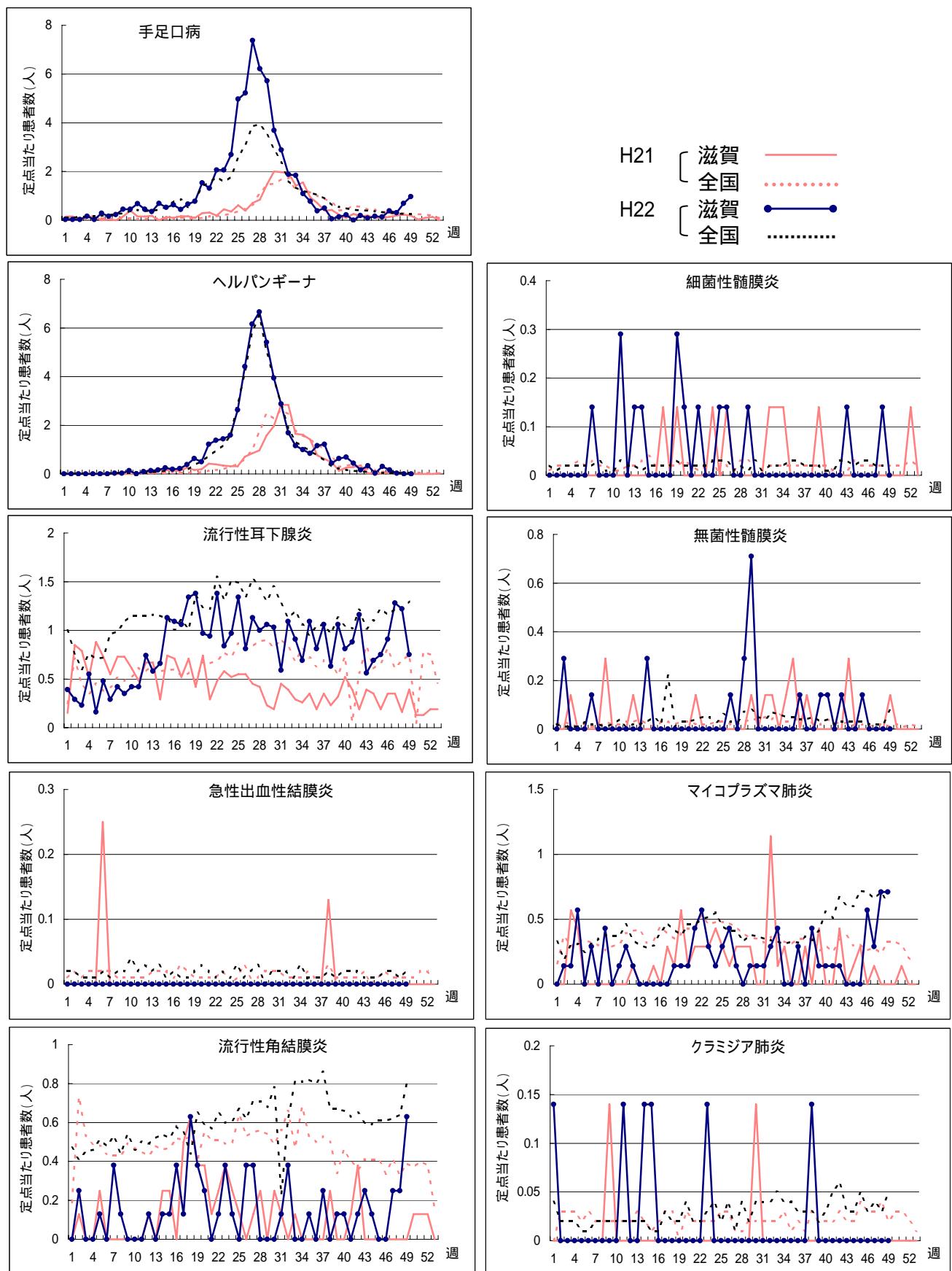
感染性胃腸炎では、48週以降、東近江保健所管内で急増しています。また、RSウイルス感染症では、47週以降、草津保健所管内で増加傾向となっています。

## 疾病別定点当たり患者数(平成22年第1～49週、H22.1.4～H22.12.12)



[トップページに戻る](#)

## 疾病別定点当たり患者数(平成22年第1~49週、H22.1.4~H22.12.12)



[トップページに戻る](#)